

## 「神の安息」

ヘブル4:1～11

### ●導入

昨年秋に私はサバティカル休暇をいただきました。

この休暇制度のいいところは報告の義務がないということなんです  
充電や研修や休息のために自由に使い、報告の義務はないというものなんです

しかし、昨年、何人もの人にサバティカル休暇はいかがでしたかと尋ねられました  
それで、これは何にも報告しないわけにはいかないなあと感じておりました  
そこで今日は御言葉の説教と共に休暇の報告も兼ねてお話しできればと思っています

私なりに今回の休暇のテーマというものを考えていました  
私の中で示されたテーマは「安息」だったんです  
そこで、聖書が教える安息という事について学びつつ  
休暇で与えられた恵みをお分かちできればと思っています

### ●聖書朗読 ヘブル4:1～11(新改訳2017)

4:1 こういうわけで、私たちは恐れる心を持つてはいませんか。

神の安息に入るための約束がまだ残っているのに、あなたがたのうちのだれかが、  
そこに入れなかったということのないようにしましょう。

4:2 というのも、私たちにも良い知らせが伝えられていて、あの人たちと同じなのです。  
けれども彼らには、聞いたみことばが益となりませんでした。

みことばが、聞いた人たちに信仰によって結びつけられなかったからです。

4:3 信じた私たちは安息に入りますが、「わたしは怒りをもって誓った。  
『彼らは決して、わたしの安息に入れぬ』」と神が言われたとおりなのです。もっとも、  
世界の基が据えられたときから、みわざはすでに成し遂げられています。

4:4 なぜなら、神は第七日について、あるところで

「そして神は、第七日に、すべてのわざを終えて休まれた」と言われ、

4:5 そのうえで、この箇所、「彼らは決して、わたしの安息に入れぬ」  
と言われたからです。

4:6 ですから、その安息に入る人々がまだ残っていて、  
また、以前に良い知らせを聞いた人々が不従順のゆえに入れなかったので、

4:7 神は再び、ある日を「今日」と定め、長い年月の後、前に言われたのと同じように、  
ダビデを通して、「今日、もし御声を聞くなれば、あなたがたの心を頑なにしてはならない」  
と語られたのです。

4:8 もしヨシュアが彼らに安息を与えたのであれば、  
神はその後に別の日のことを話されることはなかったでしょう。

4:9 したがって、安息日の休みは、神の民のためにまだ残されています。

4:10 神の安息に入る人は、神がご自分のわざを休まれたように、  
自分のわざを休むのです。

4:11 ですから、だれも、あの不従順の悪い例に倣って落伍しないように、  
この安息に入るように努めようではありませんか。

### ●安息とは

聖書の中に安息という言葉が登場します。

おそらくみなさんにとっては安息日という言葉が一番ピンと来るのではないのでしょうか  
この安息と似た言葉に休息という言葉がよく使われます

### 休息 安息

休息というのは、見て分かるように息を休めると書きます  
つまり休息というのは、頭を使ったり、体を動かすのを止めまして  
文字通り、息を休ませるという意味があります

しかし聖書が言うところの安息は休息以上のものと言えるでしょう  
聖書において息というのは霊とか魂を指す言葉としても使われます  
ですから、安息というのは霊や魂が安らいだ状態と理解してよいと思います

私たちは体や頭が休んでいても、心に安らぎがないという事を経験します  
休日で休んでいるはずなのに、心がざわざわと落ち着かない  
気になることや悩みがあって、平安が得られないという事があると思います

そういうふうに考えますと安息日というのは単なる休みの日とは異なります  
単に心や体を休めるというだけでなく、私たちの霊や魂が安らぐ、平安がある  
そして、そこに安息日を守る目的があるというわけです

さて今日は、この安息についてヘブル書から3つの事を学びたいと思うのです

①安息は「場所」を指し示している  
②安息は「時」を指し示している  
③安息は「休み」を指し示している

- ①安息は「場所」を指し示している
- ②安息は「時」を指し示している
- ③安息は「休み」を指し示している

これから聖書が指し示す安息の意味を1つずつ味わっていきたくと思います  
ヘブル書の著者は神の安息に入ることを勧めています。ですから神の安息を  
私の安息にする、そのような経験に預らせていただけたらと思うのです

◆①安息は「場所」を指し示している⇒私たちはまだ途上にある  
1番目のポイントは安息が場所を指し示しているということです  
これは、どういうことかと言いますと「私たちは、まだ途上にある」  
という事を意味しているのであります

4:1 こういうわけで、私たちは恐れる心を持つてはいませんか。  
神の安息に入るための約束がまだ残っているのに、あなたがたのうちのだれかが、  
そこに入れなかったということのないようにしましょう。

4:3 信じた私たちは安息に入ります

この4章では「入る」という言葉が繰り返し何度も使われています  
安息に入るというフレーズから分かることは、安息が場所を示しているという事です  
この安息という言葉の背景にあったのは明らかにエジプトの旅であります

かつてイスラエルの民はエジプトで奴隷として生活をしていました、しかし  
そこから救い出され、解放された彼らにモーセを通して約束の地が示されたのです  
そこでイスラエルはエジプトでの奴隷としての生活に終止符を打ちます

そして解放されたイスラエルの民はすぐに出エジプトの旅を始めました  
彼らは旅人、寄留者となり40年に渡る荒野の旅をすることになります。そして、  
遂に旅の終わりには神が備えてくださった安息の場所へ入るようにと導かれます

あなたがたは、ヨルダンを渡り、あなたがたの神、主があなたがたに受け継がせようと  
しておられる地に住み、主があなたがたの回りの敵をことごとく取り除いてあなたがた  
を休ませ、あなたがたが安らかに住むようになる(申命記12:10)

乳と蜜の流れる地、約束の地カナン、そこが出エジプトの旅の終着点となりました  
神様の約束されたとおりに、イスラエルの民は約束の地に入りました

しかし、私たちはまだ約束の地にたどりついていません。安息に入っていません  
すなわち私たちの旅はまだ終わっていないということでもあります  
私たちはまだ旅の途上にあるのです

昨年、サバティカル休暇をいただいて、旅をしてきました  
本来であれば約束の地、イスラエルに行って来ようと計画を立てていました  
しかし、残念ながらイスラエルへの旅は先延ばしにせざるを得ませんでした

その代わりと言っては何ですが、国内で小さな旅をしてきました  
どこへ言ったのかと言いますと、軽井沢に行ってきたのです

なぜ軽井沢に行ったのかと申しますと、恵みシャレー軽井沢という  
キリスト教の研修・宿泊施設が昨年の秋で閉じる事になったと聞いたからです

恵みシャレー軽井沢



元々この施設はアメリカ人宣教師の手によって  
聖書学校として建てられたのが始まりです  
その後、キリスト教の研修と宿泊のための施設として  
長年多くの信仰者に用いられてきました

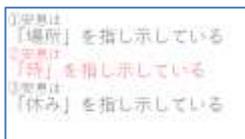
この施設は私たち夫婦にとっても思い出の場所でもあります  
かつて東京基督教大学の修養会がここで行われました  
私たちはそれ以来、約30年ぶりに恵みシャレーを訪れる事になったわけです

9月の終わりに訪れた軽井沢はもうすっかり秋の季節を迎えていました  
思い出の場所を尋ね、ゆっくりと静かな時間を満喫することができました  
まさにこの場所は神様からの安息をいただける、そのような場所でありました

軽井沢の旅は終わりました。けれども私たちの旅はまだ終わりではありません  
私たちの旅はまだ途上にあります。神様が約束された場所、安息の地を  
目指しての旅はまだまだ続いていくのであります。

みなさんが、やがて神様の安息の地に入る時が必ずやってくる事でしょうけれども私たちの人生の旅、信仰の旅はまだ途上であるということを中心にしっかり覚えていきたいと思うのです。

◆②安息は「時」を指し示している



第2番目、安息は「時」を指し示している  
ということを次に見ていきたいと思えます  
一体どんな時なのでしょう？

4:4 なぜなら、神は第七日について、あるところで

「そして神は、第七日に、すべてのわざを終えて休まれた」と言われ、

4:5 そのうえで、この箇所で、「彼らは決して、わたしの安息に入れまい」と言われたからです。

さて安息が時を指し示しているというのは一体どういう意味なのでしょう？  
ここで私たちに示されるのは、「私たちはまだ未完成である」ということです  
4:4 の背景となっているのは、間違いなく天地創造のわざであります

神様は 6 日間かけて、この世界を造られました、そして  
第七日目に、なさっていたすべてのわざを休まれたのです  
そしてこの七日目を祝福し、これを聖なる日、安息の日と定められました

安息日が定められたのは、出エジプトの時であります  
あのシナイ山でモーセを通して十戒が与えられました。その十戒の中で  
神様は「安息日を覚えて、これを聖なる日とせよ。」と言われたのです

神の民イスラエルは、この安息の日、安息の時を大切に守りました  
約束の地、安息の地カナンをめざす旅を続けながら、  
毎週、毎週、7 日目を聖別し、安息の日、安息の時を持ちました

神様が創造のわざを終えて休まれたように、彼らは働く手を止め、  
旅の歩みも止めて、安息の時間をしっかりと持ったのであります  
こうして 40 年間、欠かすことなく安息日、安息の時が守られたのであります

ところが、出エジプトの旅は私たちに意外な結末を明らかにしているのです  
どのような結末でしょうか？それは約束の地に入れなかった人たちがいた、  
ということでもあります。

4:5 を見ますと「**彼らは決して、わたしの安息に入れたい**」と書かれています  
どうして、約束の地に入れなかったのでしょうか？4:2 によれば  
「**みことばが、聞いた人たちに信仰によって結びつけられなかったから**」  
とされています。

4:2 というのも、私たちにも良い知らせが伝えられていて、あの人たちと同じなのです。  
けれども彼らには、聞いたみことばが益となりませんでした。みことばが、聞いた人たちに  
信仰によって結びつけられなかったからです。

安息は私たちに時を指し示すものです  
普段の働きをやめ、活動を一時中断して、安息の時を持ちなさいと勧めます  
それは何もしない時という意味ではありません

それは、みことばの時であり、信仰の時であります  
みことばが結びつけられる時、神の声にしっかり耳を傾ける時であります  
なぜ、そのような時が必要とされるのでしょうか？  
それは私たちの信仰が未完成だからです

みなさんは韓国オンヌリ教会を開拓したハ・ヨンジョ先生をご存じでしょうか？  
韓国でもそして日本でもすばらしい働きをされた神の人でありました  
ハ・ヨンジョ先生は偉大な伝道者、牧会者であり、そして優れた説教者でありました

そのハ・ヨンジョ先生が書かれた本にこんな本があります  
「信仰は待ち侘びながら完成する」いいタイトルですね  
もちろん、中身もすばらしい本です

信仰は植物の成長に例えられます  
みことばという種がまかれ、すぐに信仰が完成するものではありません  
水と栄養が与えられ、時間をかけて成長するのが信仰です

イエス様も4つの種のたとえ話によって信仰の成長を教えてくださいました  
種は時間をかけ、手間をかけて成長していきます  
成長を妨げるいろんな妨害が存在します  
しかし良い地に蒔かれた信仰はやがて30倍60倍100倍の実を結びます

野菜や果物を育てる人は時間をかけ、手間をかけて、  
待ちわびながらその成長を待つ事でしょう  
神様も私たちの信仰が時間をかけて成長し、実を結び、そして完成するのを  
待ちわびておられるのです

それゆえに私たちは自覚してこう言うのです。「私の信仰はまだ未完成である」と。  
ヘブル人への手紙の著者は私たちの信仰が未完成であることを意識しながら  
こう言いました

**ヘブル 12:2 信仰の創始者であり完成者であるイエスから、目を離さないでいなさい。**

イエスは私たちに信仰を与えてくださり、始めてくださった創始者です  
私たちの信仰は、まだ途上であり、未完成の状態にあります  
しかし完成の 때가必ずきます、その時を私たちも待ちわびるのです

サバティカル休暇に何をしたのですかと何人もの方に尋ねられました  
小さな旅に出かけたというのが1つめの答えでしたけど、  
日曜日に礼拝をしたというのが2つめの答えであります  
それも毎週日曜日に毎週違う教会で礼拝をするという経験をしました

尊敬する牧師から教えてもらったのですが、これを「礼拝巡礼」と言うんだそうです  
巡礼者のように毎週異なる礼拝に出席する、そしてその教会のために祈る  
特に土浦、つくばにある近隣の教会を1つずつ回って礼拝に参加させてもらいました  
これは本当に今までに無い豊かな経験となりました

普段、近隣の教会の礼拝に出席するという事はまずありません  
それでいて土浦つくばだけでも様々な教派、教団の教会がたくさん存在しています  
それぞれの教会がそれぞれの異なる味やカラーを出していました

それぞれの礼拝がそれぞれのやり方で行われ、  
それぞれに立てられた牧師先生が本当に素晴らしい説教を語っていました

普段、めぐみ教会で礼拝を守っている時は、誰かのことがいつも気になります  
その誰かというのは新来者であつたり久しぶりに礼拝に来た方だつたりします  
そして礼拝で何かアクシデントは起こらないかなど、気になる事がたくさんあります

しかし礼拝巡礼において、私は一人の礼拝者になりきります。それぞれの教会で  
毎回、違った祝福を受け、ひたすらに安息の時を持ちました。  
それはみことばが信仰によって結びつけられる時間であつたと思います。

礼拝は私たちが道半ばであり、自分が未完成であることを示される時です  
そして同時に安息日は私たちが神様の招きを受ける時であります  
私たちが信仰の完成を目指して、ひたすらに安息を求めていく時であります

これからも信仰の創始者であり完成者であるイエス・キリストから目を離さない  
そんな歩みを続けていきたいと思うのです

### ③安息は「休み」を指し示している

3つめの最後のポイントです。安息は休みを指し示しているということです。

1 安息は  
「場所」を指し示している  
2 安息は  
「時」を指し示している  
3 安息は  
「休み」を指し示している

安息とは何かを成し遂げることはありません

何らかの業績や働きを全うすることでもありません

安息とはひたすら休むことを私たちに求めるのです

4:9 したがって、安息日の休みは、神の民のためにまだ残されています。

4:10 神の安息に入る人は、神がご自分のわざを休まれたように、  
自分のわざを休むのです。

最初に申し上げたように安息と休息は異なります、違ってきます。

休息というのは、精神的・肉体的な休みを意味する言葉です。

それに対して安息とは霊的な休みを意味しています。

すなわち私たちは安息の内に魂の平安を必要としているという事でもあります

天地創造は6日間かけて行われた神のわざです  
この世界を造るために神様は働かれました  
そして神様は、完成した被造物世界を人間の手にゆだねられたのです

神様は地を満たし、地を従えよと人に命じられました  
人をエデンの園に置き、そこを耕し守るようにと言われました  
ですから私たちも神様にゆだねられた仕事に就いて、働くのです

労働は神の前において価値あるものであり、必要なものです  
そして先週、神田先生がメッセージされたように、神様から託された  
賜物、タラントを用いて私たちは熱心に働くのです

同時に私たちには休むことが必要であり、また休むことを求められています  
「**神がご自分のわざを休まれたように、自分のわざを休む**」事が大切です

神様はそのために安息日を定められました  
精神的・肉体的休息のみならず霊的な休みを取ることで  
魂の平安を得ること、これが安息日の目的とされる事なのです

私たち夫婦が軽井沢に旅行した時、ちょうど日曜日でしたので  
どこで礼拝を守ろうか、ということになりました。そこで礼拝場所として  
選んだのが軽井沢ショー記念礼拝堂でありました



この教会は日本聖公会の中部教区に属する本物の教会であります  
観光地としても大変有名なのですが、教会として今も毎週の  
礼拝が忠実に守られている教会であります

みなさんは聖公会の教会に行ったことがあるでしょうか？聖公会はイギリスの  
正統的プロテスタント教会であります、私たちがよく知っている  
一般的なプロテスタント教会とは少し違います

カトリックとプロテスタントの間のような、カトリック的要素を多分に残した  
でもれっきとしたプロテスタント教会であります

ショー記念礼拝堂の礼拝では、すばらしい説教を聴くことができました  
同時にこの日行われた聖餐式に預かる事もできました

聖公会の聖餐式は一連の流れが決まっています、  
その所作と言いますか、分餐の流れがとても美しいのです  
まるで日本の茶道でお茶をたてる時のような雰囲気を感じさせられました

写真の背後に映っているのが教会なのですが、この教会は  
軽井沢で一番始めに作られた教会でもあります。またこの場所は  
避暑地軽井沢発祥の地とも呼ばれているのだそうです。



この教会の設立者はアレキサンダー・クロフト・ショー宣教師  
カナダ生まれの聖公会の宣教師であり、生涯日本宣教のために  
すばらしい働きをされました

ショー宣教師がこの地に別荘を建てた事で避暑地軽井沢が一躍有名になります  
そして写真の右側にある教会の看板には、このような言葉が記されていました  
「ショー宣教師が避暑のため毎年この地を訪れ、休養・交わりの場とすると共に  
礼拝所を設けて霊的よりどころとした。礼拝堂は1895年に建てられ、今もなお  
天地創造の神を賛美し、祈り、静かに憩い、聖書を読む場として、すべての人に  
開放されている」

私たち夫婦は地上に置かれた安息の地を訪れ、この日、  
安息の時を持つことができた、という実感を味わってことができました。

昨年は私がめぐみ教会での働きを始めてちょうど 20 年目の年でありました  
荒野を 40 年かけて旅をした出エジプトの旅に比べればまだ半分です  
そんな 20 年の間にやってきた事と言えばやはり御言葉を語ることでした

教会学校で子どもたちに御言葉を語りましたし、TEENS では中高生たちに  
そして最近では主に青年たちにメッセージを語り続けてきています。牧師として  
当然なのですが、ある意味ずっとアウトプットをし続けてきた 20 年でした  
それがサバティカル休暇の間、一度もメッセージをしませませんでした

その間、問われたことは、一体私は何ものであるのか、ということです  
その問いに対する答えは簡単ではありません、けれどもはっきり示された事は  
私がまだ道半ばであり、そして私が未完成な信仰者であるということでした

私の信仰の旅路はまだまだ続いていきます。私の信仰を完成させてくださる  
イエス・キリストと共に私が帰るべき本当のふるさと、天の都へ向かう旅路が  
これからも続いていくことでしょう

神様は天のエルサレムを指しながら、その約束の地へと招いてくださっています  
神様が用意してくださった神の安息へ入るようにと私たちを招いてくださっています  
これからも主と共に歩む、約束の地へ向かう信仰の旅を続けて行きたいと思えます

### ● 祈り

あなたがたの間で良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでに  
それを完成させてくださると、私は確信しています。ピリピ1:6

神様、あなたに与えられ導かれた私たちの信仰の旅路はまだ道半ばであります  
イスラエルの民が約束の地を目指して旅をしたように、私たちも天の都へ向かう  
旅を続ける旅人、寄留者として歩み続けています

しかし、あなたは私たちに休みを取るようにもおっしゃってくださいます  
心身共に休むと同時に霊的な休みを得て、魂の平安を受け取りなさい、と  
おっしゃってくださいます

未熟で未完成な私たちですが、信仰の創始者であり完成者であるイエスから  
目を離すことなく、これからも前進していくことができますように。そして、いつの日か、  
天国の門に立つ時には「よくやった良い忠実なしもべよ」と呼びかける  
あなたの声を聴くことができますように

信仰の旅を導かれる主、安息日の主、わたしたちの  
主イエス・キリストのお名前によってお祈りします。 アーメン

●祝祷

信仰の創始者であり完成者であるイエス・キリストの恵みと  
神の安息へと私たちを招いてくださる父なる神の愛と  
私たちと共に信仰の旅路を歩まれる聖霊なる神の導きが

今、神を礼拝する

一人一人の上に

豊かに限りなくありますように。アーメン